

あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」展への テロ予告や脅迫および政治介入に強く抗議するとともに 早急に展示の再開を求めます

2019年8月1日から愛知県名古屋市で開催された「あいちトリエンナーレ（国際美術展覧会）」の企画展「表現の不自由展・その後」に対して、テロ予告や脅迫があいついだことから、8月3日に同実行委員会は、同企画展の公開中止を決定しました。

また、日本軍「慰安婦」被害を表現した少女像や昭和天皇の映像作品などが展示されたことから、松井一郎大阪市長や菅義偉内閣官房長官が8月2日、公金投入を口実にして、企画展に威圧を加えました。それだけではなく、河村たかし名古屋市長が8月2日に「国民の心を踏みにじる行為」と同展の「即刻中止」を求めました。

こうした政治家の発言は、政治的圧力であり、憲法第21条の「表現の自由」「検閲の禁止」に反するものです。国民の「知る権利」・「表現する権利」を公権力が侵害することは、決して許されることではありません。松井大阪市長、菅内閣官房長官、河村名古屋市長には、発言の謝罪と撤回を求めます。

暴力で表現行為を抑圧しようとする卑劣なテロ予告や脅迫に、強く抗議します。同時に、国・自治体・関係団体に対しては、「卑劣な攻撃を許さない」という姿勢を強く表明することを求めます。

河村名古屋市長の発言に対し、8月5日、大村秀章愛知県知事は、「憲法21条で禁止された『検閲』にとられても仕方がない」「公的セクターこそ表現の自由を守らなければいけない」と批判しました。同展覧会に出展していた多くの作家も8月6日、政治家の介入や脅迫と恫喝に抗議し、来場者の安全確保を条件とした企画展の継続を求める声明を発表しました。大村愛知県知事の発言、そして「表現の自由を守れ」「政治介入を許さない」という作家の表明に賛同するとともに、「表現の不自由展・その後」の早期再開を求めます。

2019年8月23日

日本機関紙協会埼玉県本部

理事長 金子 勝